

筑北小のゆく年くる年

登校日数83日に及ぶ長い2学期が、まもなく終わります。

今年の夏はひととき暑く、9月末までは屋外活動が心配されましたが、各学年の社会科学見学や畑での栽培活動、麻績小・生坂小との三校交流会など、子どもたちは元気いっぱいに取り組んできました。

10月の音楽会では全校合奏を見事に成功させ、11月には6年生全員が参加した修学旅行も無事終了し、2025年も穏やかに締めくくれそうです。

保護者・地域の皆様には、日頃より子どもたちの活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちは様々な体験を通して大きく成長することができました。

どうぞ、どなた様もよい年をお迎えください。



1年おいもほり



2年のりもの遠足



3年白菜とネギしょうかく



4年ハロウィン



5年いわかり



6年修学旅行

☆ 3学期の主な予定 ☆

1月

- 8日(木) 3学期始業式(4時間授業)給食あり
- 29日(木) 中学校説明会
- 30日(金) 3～6年スキー教室

2月

- 5日(木) 1・2年参観日
- 6日(金) 漢字検定(希望者) 5時間授業
- 10日(火) 児童総会
- 13日(金) 3・4年参観日
- 17日(火) 5・6年参観日
- 19日(木) 1・2年スケート教室

3月

- 16日(月) 3学期終業式(5時間授業)給食あり
- 17日(火) 卒業式(3時間授業)給食なし
- 18日(水)～学年末休み(来年度の入学式期日は未定)



ウラもご覧ください

来年度の筑北小学校はさらなる進化をめざします！

～以下の案についてみなさんの声をお聞かせください～

■ こんな学校にしたい！ その1「小さな村の幸せな小学校」

【1 なつかしい風景】 自然に囲まれ、四季の変化が学びにつながる。地域の自然や人とのふれあいが日常。
【2 あたたかい人間関係】 教師は子どもや家庭を深く理解し、異学年の助け合いが自然に生まれる。保護者・地域も行事や日常で学校を支える【3 学びのあり方】 村の暮らしが教材となり、「生きること」と「学ぶこと」が一体化する。【4 幸せな居場所】 子どもも大人も自分らしく安心して過ごせる。笑顔や誇りが生まれる“心の余白”のある学校



■ こんな学校にしたい！ その2「子どもも大人も共に学び合い、育ち合う学校」



【1 学びの循環】 子どもと大人が互いに教え合い、刺激し合う関係に。【2 学校と地域の連続性】 授業に地域住民が参加し、村の課題を共に探究する“開かれた学びの場”【3 対話と共考】 「正解探し」より「一緒に考える」ことを重視し、子どもも大人も素直に学び合う【4 育ち合う関係】 子どもは主体的に協働し、大人は子どもの感性から学ぶ。教師は探究の伴走者となる【5 共有される“幸せ”】 失敗を責めず協力し合い、「ここにいていい」と感じられる文化づくり。

■ そのための手立て(案) 「つながり」「したい・しよう」「学びの改革」をキーワードに

【1 五時間授業日を増やし放課後の時間を】

- ・高学年の5時間授業日を大幅に増やし、下校時刻はそのままにして「放課後の時間」を拡充。地域の方による不定期な「ふるさとふれあい講座」と日常的な安全確保、子どもは自由遊びや興味に応じた探究的な活動
- ・課題は時間割編成、学習進度、放課後のけがやトラブルの懸念

【2 「教える・教わる」から子ども同士が学び合う授業へ(学びの改革)】

- ・教科横断的な問いで学びを関連づけ、時数減に対応
- ・子ども同士の学び合いを授業の当たり前にし、教師が“話すぎない”授業へ
- ・水泳学習の外部委託は安全面と学びの充実から実施の方向へ

【3 他学年や地域の方とつながる「たいようの時間」】

- ・総合的な学習の時間、生活科の時間を「たいようの時間(仮称)」とし、地域(特に坂井地区)で環境整備、特産品開発、スポーツ、自然再生活動など多様なプロジェクトを展開
- ・保育園・中学校・地域団体とも連携
- ・図工室を「地域交流室」に改造し、地域の方の活動拠点に
- ・異学年交流は「たてわり班」と「きょうだい学年」でより柔軟に



【4 子どもと大人が共につくる学校】

- ・6年生が1回の職員会議に参加し、提案・意見・質問を行う
- ・朝の時間に「つながる活動(児童会など)」を実施
- ・学校行事は実行委員会を児童から公募し、教職員と共に企画・運営
- ・音楽会を文化祭にし、「たいようの時間」「放課後の時間」の発表。合唱・合奏もあり

アンケートフォームからご意見をお寄せください！(1月13日×切)→

【QRコードを読み取っていただくとアンケートフォームに移動できます】

